信仰詩集

神を呼ぼう

八木重吉著

新教出版社

信仰詩集

神を呼ぼう

八木重吉著

新教出版社

神を呼ぼう　© 1961

1961年7月20日　第1版第1刷
1986年9月20日　第1版第25刷　定価550円

著者　故八木重吉
発行者　森岡巌
印刷所　カシヨ印刷株式会社

発行所　東京都新宿区新小川町9の1
株式会社 新教出版社
振替 東京8-9991
電話 (260) 6148

1216—140551—6100(配給元・日キ販)

願

私は
基督の奇蹟をみんな詩にうたいたい
マグダラのマリアが
貴い油を彼の足にぬったことをうたいたい
出来ることなら
基督の一生を力一杯詩にうたいたい
そして
私の詩がいけないとこなされても
一人でも多く基督について考える人が出来たら
私のよろこびはどんなだろう

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目次

願……一

神・キリスト

〈おんちち〉……一四
〈てんにいます〉……一五
〈もったいなし〉……一五
〈もったいなし〉……一六
みんなもよびな……一六
〈天に〉……一八
〈きりすとをおもいたい〉……一八
〈きりすと〉……一九
〈きりすと〉……一九
〈ときとところと〉……二〇
宇宙の良心……二一
頌栄……二一
〈ゆくものよゆけ〉……二三
真理……二三
信仰……二三
信仰……二三
声……二四
称名……二四
解決……二五
〈何の疑もなく〉……二五
〈むつかしい路もありましょう〉……二六
〈救われているのだから〉……二六
〈このさびしさを誰に告ぐべきか〉……二七
〈何も言いわけする必要もない〉……二七
自分へ……二八

仕事……二八
〈やさしさ〉……二九
〈うそのことばだ〉……二九
〈イエスの名を呼ぶこと〉……三〇
〈イエスを信ずること〉……三一
キリスト……三一
基督……三三
基督……三三
〈私の心には〉……三三
〈基督になぜぐんぐん惹かれるか〉……三五
〈私はくるしい〉……三六
〈ギリシヤ語の聖書をよめば〉……三六
洗礼……三七
祈……三七
〈主のいのりはめぐる〉……三八
〈なにゆえ〉……四〇
酒……四一
眼……四一
手……四二
奇蹟……四二
変貌……四三
ゲッセマネ……四四
十字架……四五
基督……四五
再び来る……四六
聖霊……四六
祈……四七
〈ついに〉……四七
〈よぶがゆえに〉……四八
〈われよべば〉……四八
〈みえきたらんとするもの〉……四九
〈われちちとよぶ〉……四九
〈ときたま〉……五〇

神の道……五〇
〈わたしは〉……五一
〈すぎつる日には〉……五三
〈いつわりにいくるくるしさ〉……五四
万　象……五四
天　国……五五
〈このように〉……五五

自　然

梅……六〇
花……六〇
桜……六一
花がふってくるとおもう……六一
桜……六二
〈牡丹桜に〉……六二
春……六二
楓……六三
雲　雀……六三
雲　雀……六三
春（天国）……六四
鶯……六四
雀……六五
〈鳩　キリスト〉……六五
鳩……六六
鳩……六六
鳩……六七
春……六七
春……六七
春……六八
春の朝……六八
春……六九
春……六九
春……七〇

春……七〇
春……七一
春……七一
夜……七二
火（春）……七二
百日紅……七二
ばった……七三
〈草はひとすじの気持を外らさぬ〉……七三
麦……七四
〈静かな焔〉……七四
〈かんがえてみると〉……七五
森……七五
雨……七六
〈秋の気持ちがわかると〉……七六
秋……七七
虫……七八
夕陽……七八
響……七九
素朴な琴……七九
障子……八〇
菊……八〇
月……八一
雀……八二
冬……八二
冬……八三
雲……八三
冬の朝……八四
冬……八四
昼の月……八五
麦……八五
麦……八六
〈いちばんいい〉……八六

〈あさあけのふしあなからもれる〉……八七
〈やわらかく〉……八七
夕　焼……八八
空……八八
日をゆびさしたい……八九
夕　焼……八九
〈雲はいく〉……九〇
天というもの……九一
怒れる相……九一
太　陽……九三
太　陽……九四
太　陽……九四

心

本当のもの……九六
〈おおくくずしては〉……九六
暗い心……九七
うつくしきわたし……九七
ねがい……九八
ひかり……九八
光……九九
ひかる人……九九
〈もえなければ〉……一〇〇
〈さがしたってないんだ〉……一〇〇
〈かなしいのでもいい〉……一〇一
私……一〇三
〈他人が〉……一〇三
〈みずが〉……一〇三
〈本当にうつくしい姿〉……一〇四
〈深い人生よりもっといい人生〉……一〇四
〈尊いもの〉……一〇五
〈人を打つもの〉……一〇五
〈人生はいつたのしいか〉……一〇六

子　供……一〇六
〈はん省ということをわすれて〉……一〇七
〈ここに三昧の世界があるなら〉……一〇七
〈こういうくらしができたなら〉……一〇八
〈しばらくでいい〉……一〇九
ねがい……一〇九
ねがい……一〇九
理　窟……一一〇
草に　すわる……一一〇
夜……一一一
〈むなしいことばをいうな〉……一一一
〈一歩踏みいだすのさえ〉……一一三
犠（いけにえ）……一一三
私……一一三
〈神とひとつに生き〉……一一四
〈許しうるものを許す〉……一一四
〈ゆるされ難い私がゆるされている〉……一一五
ゆるし……一一五
〈すべての〉……一一六
〈憎む心がおこったら〉……一一六
〈罪は悪魔にいざなわれた私の影〉……一一七
〈虹を見るように〉……一一七
〈私にはどうしても他人の過ちを許せぬとき〉……一一七
〈わたしだって〉……一一八
愛のことば……一一九
愛……一一九
〈根なき花は枯れる〉……一二〇
愛……一二〇
〈いきどおりながらも〉……一二一
〈私に出来ない善い事を〉……一二一
〈愛は世界の共有である〉……一二二
魂……一二二

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

〈縁側の腹ばい〉……一二三
〈これ以上の怖れがあろうか〉……一二三
〈この心だれも知ってくれぬのか〉……一二四
〈死〉……一二四
〈自分をむちうち〉……一二五
〈死んでもいいのだ〉……一二五
〈私は何のために生きている？〉……一二六
〈信ずる者が〉……一二六
〈死のうかと〉……一二七
〈死のうかとおもう〉……一二七
〈痩せた手をながめ〉……一二八
石……一二八
願……一二九
〈忍びてゆけ〉……一二九
詩……一三〇
私の詩……一三〇
夢……一三一
〈かなしみのせかいをば〉……一三一
〈みずからをすてて〉……一三二
〈ほんとうに〉……一三三
〈詩をつくり詩を発表する〉……一三三
〈わたしの詩よ〉……一三四
〈なぜわたしは〉……一三四
〈Keats, magic〉……一三五

家族

赤ん坊が笑う……一三八
わが児……一三八
息を殺せ……一三九
〈妻よ〉……一三九
〈この翼〉……一四〇

〈私が〉……一四一
〈私がくるしんできたのは何のた
めだ〉……一四一
〈私は〉……一四二
〈妻が私を信ぜぬとき〉……一四三
〈私の世界はせまい〉……一四三
〈みんな寝ている〉……一四四
春の夜……一四四
〈深刻な考えになるにしても〉……一四五
〈からだが快くなっていく〉……一四六
〈家中みんな寝ている〉……一四六
〈妻をいたわり〉……一四七
〈よろこばしげな〉……一四七
愛の家……一四八

絶筆

病床無題……一五〇
〈わが詩いよいよ拙くあれ〉……一五〇
〈独り言ぐらい真剣な言葉があろ
うか〉……一五〇
〈つきとばされて〉……一五一
〈どうせ短い命〉……一五一
〈肺患者は死を怖れぬ〉……一五一
〈何はともあれ〉……一五二
冬……一五三
〈固有名詞に〉……一五三
〈声はいい〉……一五四
〈私は一人のヤソ教徒〉……一五五
〈神さま　あなたに会いたくなっ
た〉……一五五

〈にじみでる涙もある〉……一五五
詩神へ……一五六
〈なあーに死ぬものかと〉……一五六
〈夢の中の自分の顔と云うものを始めてみた〉……一五六
病床詩篇……一五九
〈あれは夢だったか〉……一五九
〈太陽よりもっともっと高いところに〉……一六〇
〈長い命でないとおもえば〉……一六〇
鳩……一六〇
床上独語……一六一
〈十字架につけられ〉……一六一
〈早く癒って〉……一六二
〈浪の音が〉……一六二
〈富子〉……一六三
〈窓から見える空や雲のながれ〉……一六三
〈在天の神よ〉……一六四
〈ああ〉……一六四
〈煉獄の日〉……一六五
〈神様の御心と一所にいよう〉……一六五
〈あの浪の音はいいなあ〉……一六五
〈何んだか心細いな　秋はな〉……一六六
〈夢に神を見たい〉……一六六
〈秋空を見て心静まる日あり〉……一六六
〈我自らを殺さざるはキリストを信ずる故なり〉……一六六
年譜……一六七
跋……一六九

〈　〉のなかに入れた詩は、無題の詩であるために、第一行の詩句を以て、表題にかえたものである。（編集部）

神・キリスト

○

おんちち
うえさま

おんちち
うえさま
と　とのうるなり

千九百二十五年
大正十四年二月十七日より
われはまことにひとつのよみがえりなり

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com